

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	かわちながの森林プラン推進協議会
2 開催日時	令和元年7月5日(金) 午前10時から午前11時30分まで
3 開催場所	河内長野市役所 6階 601会議室
4 会議の概要	<ul style="list-style-type: none">・平成30年度かわちながの森林プラン実行プランの実績報告・令和元年度のかわちながの森林プラン実行プランについて・意見交換
5 公開・非公開の別 (理由)	公開
6 傍聴人数	0人
7 問い合わせ先	(担当課名) 環境経済部 農林課 林政係 (内線423)
8 その他	

*同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

第1回かわちながの森林プラン推進協議会 会議記録

会議名称 第1回かわちながの森林プラン推進協議会
開催日時 令和元年7月5日（金）午前10時から午前11時30分まで
開催場所 河内長野市役所 6階 601会議室
出席者 委員（別紙名簿のとおり）
事務局 太口部長、オノ平課長、泰中課長補佐、加納主幹兼係長、住田、末久
会議内容 別紙次第のとおり。詳細は以下のとおり。

○詳細

1. 開会

委員7名中、7名が出席され、設置条例第6条第2項「委員の半数以上が出席」に基づき、会議を開会した。

太口部長より開会のあいさつ。

森林環境譲与税や経営管理法がスタートした。第2期森林プランではこれを大きなチャンスと捉えて、引き続き進めて参りたい。今年度は、組織編成を行い、独立した林政係ができた。また、第2回木のある暮らしコンテストではグランプリ及び準グランプリの商品化が決定し、皆様の協力に感謝する。令和初めての協議会では、河内長野市内の森林成長に向けて、ご審議賜りたい。

2. 委員委嘱

大阪府南河内農と緑の総合事務所の早川森林課長が4月15日付けで就任されたため、太口部長から同日付の委員委嘱状を交付した。

3. 議事

（案件1 平成30年度のかわちながの森林プラン実行プランの実績報告）

昨年度第2回かわちながの森林プラン推進協議会で完了分のみ実績報告を行っていたが、初参加の委員の方もおられたので、昨年度末に事業完了したものの実績について実行プランの実績資料をもとに全事業を説明した。意見については以下のとおり。

倉橋委員：実行プランCでアンケートが実施されていない理由はなにか。

住田：後ほど説明するスケジュールに沿ってアンケートを実施していく予定である。企業へのアンケートについては、前回いただいた意見もふまえ、アンケートではなくヒアリングを進めて行く予定である。

倉橋委員：もう7月になっている。実施を妨げている要因があるのであれば、やり方等相談いただくこともできる。アンケートには正解はなく、早めに進めてその都度精査する方が良い。

早川委員：森林情報集約化の900名とはどういった数字か。

住田：年2回発行の森林組合通信に同封して送付いただいたもので、数字としては河内長野市に森林を所有されている森林組合員の人数である。

堀切委員：補足すると、旧の河内長野森林組合の組合員数である。

倉橋委員：森林情報集約化に向けて、広報に「森林のことで困っていませんか」等の記事を掲載して、回答を募ってみてはどうか。また、固定資産税通知にアンケートを同封してもよい。

井元委員：森林所有者は「困っている」のではなく、あきらめている。森林所有自体が面倒となっている。保安林所有者が多いため、課税されていない人も多い。通知は保安林であっても行われている。

倉橋委員：活用できる森林情報を集めることが目的なので、「こんな森を探しています」といった内容でもよいと思う。

奥野会長：これらの意見を受けて一度市でも検討いただきたい。

住田：広報や税通知へのアンケート同封は検討していきたい。

(案件2 令和元年度のかわちながの森林プラン実行プランについて)

事務局担当より、令和元年度かわちながの森林プラン年間スケジュールを用いて説明した。意見については以下のとおり。

堀副会長：実行プランAの「多面的機能の保全」となっているが、普通の間伐と比べて何かプラスでやっていることはあるか。

加納：プラスで行っていることはない。

仲谷委員：多面的機能と記載はされているが、実施は単純に間伐だと思うので、森林プラン上の記載としてはそぐわないかもしれない。

倉橋委員：生物多様性の観点からの間伐の話聞いたことがある。

早川委員：環境省で希少種等の生息環境を守るための間伐に対する補助はあったかもしれない。

仲谷委員：生物多様性の観点を考えると逆に間伐が進めにくくなる。

堀副会長：経営を意識した森林づくりは、生物多様性の取組みと必ず合致するとは限らない。多面的機能の維持を謳うのであれば、混交化といった取組みや生物多様性も含めた森林づくりを進めるべきと思われる。

早川委員：森林整備と多面的機能の向上は、森林所有者の意向とミスマッチすることも考えられる。林道付近では100年の森林づくり、搬出の難しい山頂等では環境を重視する等、ミスマッチが起こらないよう誘導すべきではないか。

奥野会長：この課題は行政に限るものではなく、我々林業に携わる者も考えて行かなければならないものだと思う。

堀切委員：資料2の補足になるが、「おおさか河内材認証材の利用量」が減少しているが、出荷証明を添付した量のため、出荷量が大きく落ち込んだものではない。歩留まりでいうと、だいたい共販所の搬出量の6割は製材され、どこかに出ていると考えられるので、今年度の共販所の河内長野市産材1,919 m³のうち6割ほどは利用されているのではないか。千早赤阪村の搬出量が増加しているのは、村独自の搬出補助(7,000円/m³ ※補助事業による搬出であれば

8,000 円/m³) の効果もあると思う。

倉橋委員：市と販売促進協議会の役割分担はブランド管理が市、PRは販売協議会という理解で良いか。どちらが担当か整理しておいた方が良いのでは。

住田：商標登録は市で行ったが、どれだけの材が提供できるかといった部分は販売協議会の担当になる。木のある暮らしコンテスト等は市で行うので、市としてPRを担っているところもある。

奥野会長：商標登録はみんなで使えるように市が行った経緯がある。

堀切委員：資料1の実績表について、税金を投入している市主体の部分とその他事業者主体の事業が混ざっているので、色分けして分かりやすくすれば、全て市でやっていかないといけないという誤解がなくなるのではないか。

4. 意見交換

倉橋委員：教員向け講座を8月に実施を予定している。前回講座との違いは子どもが参加する点（イベントの子どもの反応を見る）である。先生の免許更新の選択科目に体験プログラムを組み込むということが決まり、大阪教育大学と7月から内容を精査していく。大阪府や河内長野市にも参加いただくことはできるので検討いただければ幸いだ。

仲谷委員：譲与税関連のイベントで、大阪市東成区主催イベントを南河内林業も含めた共同体で実施する。区内小学生500名を対象に木育体験等を実施する。

堀切委員：組合の実績を紹介（子育て施設木質化等）。また、木糸による商品の検討を行っている。

5. 閉会

議事がすべて終了し、次回は令和2年2月上旬を目途に開催予定として閉会した。

以上